

# メーサイ市職員が結城市役所で3ヵ月研修

タイ・メーサイ市役所職員のジャンホム・ソクムさん（愛称 ホンさん）が、姉妹都市の結城市で3ヵ月間の研修を終え、8月31日に帰国します。ホンさんの結城市の研修は、今回が2回目。前回は、公益財団法人 茨城国際親善厚生財団（I I F F）の仲立ちで、平成25年7月から約1年間、日本語学習と市役所行政を勉強しました。今回はI I F Fの仲立ちで、両市が姉妹都市締結5周年を迎えて両市の理解を深め、さらなる交流の窓口となるために来日しました。

ホンさんは、メーサイ市で看護婦として仕事をする一方、前回の研修後に1億9500パーツ（1パーツは約3.3円）のごみ処理施設整備や2億5千パーツの下水道事業などのプロジェクトにもかかわりました。

今回は3ヵ月間で市役所にある約35カ所の課をすべて体験。「タイでは、国や県の担う仕事が多く、市役所の職員は少ないです。日本では、市役所が大変幅多くの仕事を行っているのに驚きました」。そして、「日本は保険制度が充実し、課税の制度もしっかりしている。タイも高齢化が進み、日本の制度をタイでも広めたい」と話すホンさん。今年11月には結城市民とI I F Fがメーサイ市で日タイ修好130周年、姉妹都市締結5周年などを祝うイベントを行う予定で、タイ側の企画もホンさんが企画中で、「日タイの文化を対比させてお互いに紹介するイベントも行いたい」と話していました。

平成29年8月18日

